

四国テクノブリッジフォーラム運営委員会開催報告

日 時◆平成20年6月9日（月）14：00～16：30

場 所◆サンポートホール高松 54会議室

主 催◆四国テクノブリッジフォーラム（以下、四国TBF）

〔事務局：財団法人四国産業・技術振興センター（略称、STEP）〕

6月9日に平成20年度第1回「四国テクノブリッジフォーラム運営委員会」を開催いたしました。本委員会は、四国の産業クラスター活動を良く理解いただき、積極的に参画している各県のコア企業の皆様方を委員にお迎えし、クラスター形成の中心的役割を担う企業の目線に立ったご意見をいただきながら、20年度の四国TBF事業計画について、より具体的な成果が期待できる活動に取り組むことを目的としたものです。

委員長は、香川短期大学の石川学長にお願いしました。

委員会の冒頭、四国経済産業局能登部長より、「地域活性化は我国の最重要課題であり、そのためには、産業クラスター形成活動を中核の一つとして、地域にイノベーションを創出することが必要である」との挨拶がありました。

意見交換では、各委員より「企業の重い腰を上げさせるほどの努力、利益が見えないと食らい付かない、それには身近な成功事例とPRしてくれる企業が必要」、「認知度が低いのは中身が説明しづらいからではないか」、「参画企業460社を、これ以上増やす必要はないのでは」、「コア企業は、460社の中のスリープ会員をターゲットにするのが近道では」、「課題の可視化ができていないのでは」等々、石川委員長のリードにより活発な議論が交わされました。

今年度も引き続き四国TBF活動を推進し、四国の強みを生かした「モノ作り」「健康・バイオ」クラスターの形成を目指し、活動していきます。



(4) 平成20年度四国テクノブリッジフォーラム事業計画の概要

分類	件名	内容	目標・実施時期等
(1).ネットワーク形成事業	①四国テクノブリッジフォーラム等のネットワーク基盤整備(運営委員会)	・四国テクノブリッジフォーラム(以下、TBF)の運営全般に関する事項や事業計画、事業報告、今後の進め方等を審議する。 ・構成員はコア企業等、拠点組織、産業技術総合研究所、中小企業基盤整備機構、四国経済産業局および四国TBF事務局。	・年2回開催 6月9日、3月下旬
	②四国テクノブリッジフォーラム等のネットワーク基盤整備(連携推進会議、拠点組織訪問)	・ミニクラスター機関や関係支援機関との情報交換や支援方策の検討を行う。 ・個別に各ミニクラスター機関を訪問し、摺り合わせを行うことにより、同会議を補完する。 ・構成員は拠点組織、産業技術総合研究所、中小企業基盤整備機構、四国経済産業局および四国TBF事務局。	・年3回程度開催 6月2日、10月、2月を予定
	③クラスター・マネージャーの配置	・四国テクノブリッジ計画全体を統括するクラスター・マネージャー1名を配置し、活動の活性化および自立化を進める。 ※クラスター・マネージャー:石野 淳一	・クラスター・マネージャー1名を配置
	④クラスター・コーディネーターの配置	・専門的な知識をもとにしたアドバイスやサポートを行うコーディネーターを配置する。 ・都市圏や一定エリアの企業情報に精通しているコーディネーターを配置する。 ・クラスター・マネージャーを補佐して、四国TBF全体のコーディネートをを行い、ミニクラスター機関との連携を図りながら事業全体を進行管理する総括連携コーディネーターを配置する。 ※総括連携コーディネーター:伊藤 英樹	・外部コーディネーター6名程度を配置
	⑤コア企業の発掘・育成 コア企業間の連携・融合	・ミニクラスターの形成にリーダー的役割を果たす企業、連携やイノベーション指向が高く、事業化に積極的に取り組んでいる企業を発掘し、コア企業として育成する。 ・各コア企業の分析を行ない、フォローアップヒアリング等も通じてニーズ・シーズを確認し、補完関係のあるコア企業の連携・協働の場(マッチング)を設けることにより新たな事業化へつなげる。	・20年度末コア企業数70社
(2).新事業創出支援事業	①ソリューション検討会の設置・運営	・19年度に構築した、各産業支援機関が持っている支援ツールを有機的に連携し、ワンストップで支援する仕組みである『ソリューション検討会』を拡充・強化する。 ・具体的には、①各産業支援機関との企業情報の共有の拡大を通じたアンテナ機能の強化(面的広がり)、②持ち込まれた案件のつなぎ能力の強化(専門人材共有・機能強化)、③支援メニューの多様化(品揃え)を図る。	・アライアンス機能、ネットワークおよび事業化支援ノウハウを有機的に結びつける仕組みを構築する。
	②専門家の派遣および専門家機関の活用	・企業訪問等で得られた、あるいはミニクラスター機関から寄せられた課題等を解決するための専門家の派遣および専門家機関の活用により、必要な調整・支援等を行う。 ・専門家派遣等については、他機関が持つ機能を可能な限り有効利用する。	・年間企業派遣件数20件
	③協力パートナー企業の活用	・フォーラム会員企業の販路開拓の支援、商品評価などの支援に加えて、都市圏のマーケットに関するセミナーの講師及び国内での各種マッチング会への招聘を行う。	・協力パートナー企業数3社増 17社→20社へ
	④他地域クラスターの支援ツールの活用等	・四国の企業の事業化を支援するため、他地域、特に都市圏のクラスターのもつ事業化支援スキームを有効活用するほか、他地域のクラスターと個別に共同事業等を計画・実施する。	・新事業の創出促進
	⑤他地域クラスターとの連携	・他地域で活動しているバイオ関連等のクラスターと連携し、事業を実施する。 ・19年度に引き続き、大阪・神戸において、北海道バイオクラスターと合同でマッチング会を実施する。 ・全国のバイオ関連クラスターと連携して、クラスター間の連携強化および規模のメリットを活かして、大手製薬メーカー・食品メーカー・化粧品メーカーを招聘し、ビジネスマッチングを実施する。	・マッチング3件 1月開催 9月8日～9日開催
	⑥川上川下企業の技術シーズ・ニーズのマッチング	・18、19年度、都市圏の川下企業を対象としたニーズ調査により収集した技術課題に四国の中堅企業が対応するマッチング事業を展開する。 ・四国の川上企業のシーズ把握については、各県財団のコーディネーターを活用することにより、マッチング効果・効率を上げる。 ・また、都市圏の川下企業のニーズを把握している専門機関による、四国内の川上企業の技術シーズとのマッチングを図る。	・マッチング10件以上

分類	件名	内容	目標・実施時期等
(3)連携促進事業	①溶接・表面改質フォーラム事業	・ものづくりの基盤技術である溶接・表面改質分野において、企業の持つ課題解決のためのソリューションプラットフォームを運営し、技術的相談や技術開発を支援するとともに溶接の人材育成と表面改質のネットワーク形成と先端技術研修を目的としたセミナーを開催する。	・研究開発プロジェクト2件以上 ・年3回程度開催
	②環境プロジェクト推進事業	・環境問題の課題対応ニーズや、大学、試験研究機関、企業等が持つ研究シーズの発表を行う会合を開催し、課題解決やプロジェクト創出に向けたマッチングを図る。 ・有望なテーマについては、技術・市場情報、取組課題の意見交換や共同研究プロジェクトを立ち上げるための検討会を実施する。 ・開発製品のマーケティングを支援するためのセミナー・講演会等を開催する。	・「排水処理技術」に着目した研究活動を推進 ・年6回開催 ・年5回開催
	③ZnO事業化促進事業	・実用化開発を通じて企業が保有する使える技術・ノウハウを体系化・登録したデータベース整備を行い、事業マッチングに活用する。 ・実用化開発を通じて得られた知見などを発表する場を設け、今後の他事業への展開の可能性を示すことで、組み合わせによるイノベーション創出を狙う。 ・ものづくりコンソ開発装置のユーザー会やZnOフィルム(ロールツーロールで製膜)に関心のある企業を含めた研究会を立ち上げ、様々なデバイスへの適用の可能性を探る。検討の中から、共同開発に繋げていく。 ・ZnO製膜に関する人材育成を兼ねた講習会を開催する。開催にあたっては、広く企業からの人材を受入し、実務的な教育を行う。高知工科大クリーンルームや連携研究センター設備を活用する。	・実用化開発プロジェクト3件以上 ・実用化開発成果発表会を年2回程度開催 ・研究会発足、年4回程度開催 ・年6回程度開催
	④次世代紙産業形成促進事業	・紙産業ネットワーク形成事業を円滑に推進するため、事業活動及び運営の方向性、関連事業等の実施方針等の検討を行うほか、紙産業データベース構築のためのデータ収集、紙産業マップの作成を行う。・専門家等による個別企業等訪問により課題解決を行うほか、他地域クラスターの異業種産業との連携を積極的に展開し、新商品の開発や、共同研究などを促進する。 ・四国地域外の紙関連企業、特に機能紙関連企業との連携を活かした、広域的な連携事業を展開することで、新技術の開発や新事業の創出を加速する。 ・四国全域を対象として紙産業異業種交流フォーラムを開催し、地域企業・公設試・大学等と都市圏のマーケティング分野との新技術・新製品の情報交流を行うことにより、ニーズ・シーズのマッチングをはかり、新分野の紙製品の創出を促進する。	・推進会議年4回開催 ・年訪問企業数50社 ・紙セミナー年1回開催 ・年1回開催
	⑤四国食品健康クラスター創生事業	・四国の各地に存在する食品健康ミニクラスター等の連携を促進するための事業を展開する。 ・例えば、各ミニクラスターを訪問調査し、取り組みや課題等の情報収集を行い、得られた情報をデータベースとして、残渣の有効活用方法、人材育成、機能性の確保等共通の課題を持つミニクラスターがあれば、双方に対してピンポイントの情報発信を行い結びつける。	・マッチング3件
(4)販路開拓支援事業	①展示会出展支援(モノ作り分野)	・都市圏で開催されるモノ作り関連の展示会などのイベントに参加する企業費用の一部を負担し、四国管内のモノ作り関連の商品、技術のPRを行い、販路開拓・拡大を支援する。	・マッチング10件 12月 エコプロダクツ2008
	②展示会出展支援(健康・バイオ分野)	・都市圏等で開催される健康・バイオ関連の展示会などのイベントに参加する企業等費用の一部を負担し、四国管内の健康・バイオ関連の商品、技術のPRを行い、販路開拓・拡大を支援する。 ・出展に際しては、ミニクラスター機関と共同出展を促進し、出展企業に対する研修、マッチングの可能性のある企業に対しての事前訪問など、単なる展示会出展支援以外のところでのノウハウの蓄積を図ると共に、都市圏協力パートナー企業を活用したマッチング等を実施するなどの事業効果を高める工夫を加える。	・マッチング10件 9月 ギフトショー秋2008 10月 BIO JAPAN2008 3月 健康博覧会2009 他
(5)情報提供事業	①情報配信・提供事業(ホームページの充実・電子会議室の運用)	・四国テクノブリッジ計画の活動状況、施策情報等、会員企業に対してきめ細やかで、タイムリーな情報を提供するため、ホームページの充実を図るとともに、電子会議室を活用して、各拠点組織・支援組織などとの情報連携を密にする。	・適宜実施
	②情報配信・提供事業(メルマガ配信等)	・四国テクノブリッジ計画の活動状況、施策情報等、会員企業等に対してきめ細やかで、タイムリーな状況を行っていくため、メルマガ配信等を行う。	・月2回配信